

学校給食に関するアンケート調査結果（概要）について（報告）

1 調査対象等

(1) 調査対象・方法

- ① 調査実施校の中学2年生・小学5年生を対象にクラスごとに実施
- ② ①の児童生徒の保護者を対象に、児童生徒を通じて配付・回収
- ③ 調査実施校の教職員を対象に配付・回収

(2) 調査内容

給食の評価、希望する提供方式等（「食に関するアンケート」の中で実施）

(3) 調査時期

平成30年12月～平成31年1月

<対象児童生徒数・回収率>

校種	調査実施校数(校)	対象児童生徒数(人)	回答数(人) (回収率%)				
			児童生徒	保護者	教員	給食調理員	
中学校 (全64校*)	デリバリー給食受配校	21	3,497	3,171 (90.7%)	2,041 (58.4%)	483	—
	給食センター受配校	5	870	814 (93.6%)	585 (67.2%)	111	—
	自校調理校	5	1,154	1,074 (93.1%)	858 (74.3%)	150	21
	小計	31	5,521	5,059 (91.6%)	3,484 (63.1%)	744	21
小学校 (全142校)	給食センター受配校	9	862	851 (98.7%)	728 (84.5%)	211	—
	自校調理校	54	5,296	5,120 (96.7%)	4,499 (85.0%)	1,419	178
	小計	63	6,158	5,971 (97.0%)	5,227 (84.9%)	1,630	178
合計	94	11,679	11,030 (94.4%)	8,711 (74.6%)	2,374	199	

※中等教育学校を含む。

2 調査結果

(1) 給食の評価

① 味、温度、メニュー（献立）

「味」「温度」「メニュー（献立）」のそれぞれについて、「よくない」と答えた生徒の割合が、デリバリー給食受配校で高い結果となった。

特に「温度」については、デリバリー給食受配校で「よくない」と答えた生徒の割合が57%と、給食センター受配校・自校調理校が10%以下であるのに対し、著しく評価が低く、またその理由として最も多かったのが「冷たいから」だった。（図1、図2、図3）

図1 味（児童生徒）

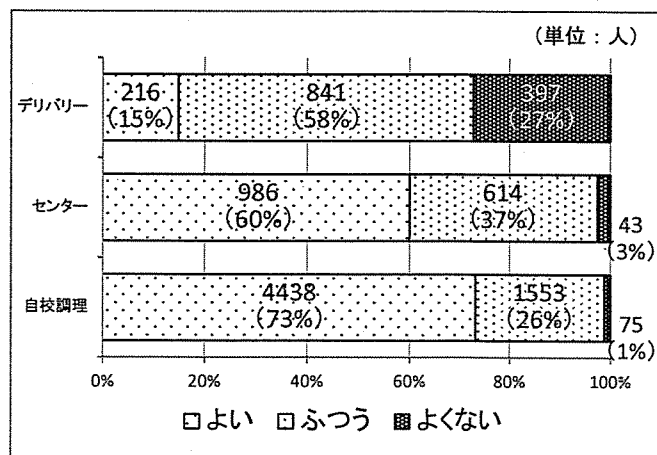


図2 温度（児童生徒）

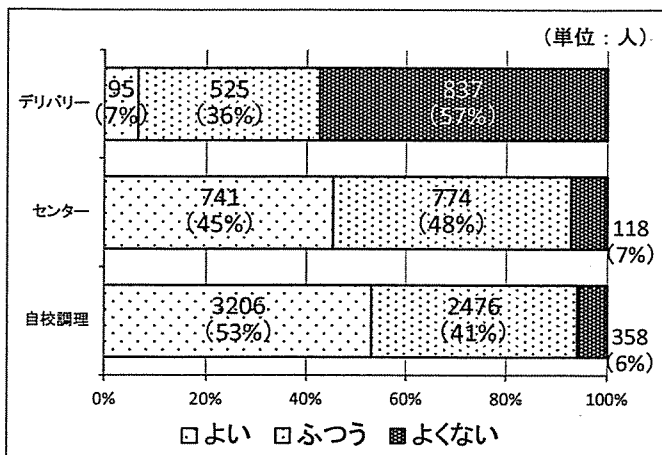
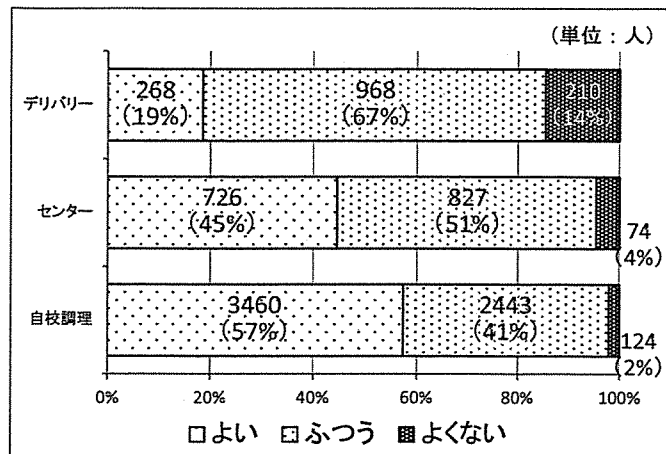


図3 メニュー（献立）（児童生徒）

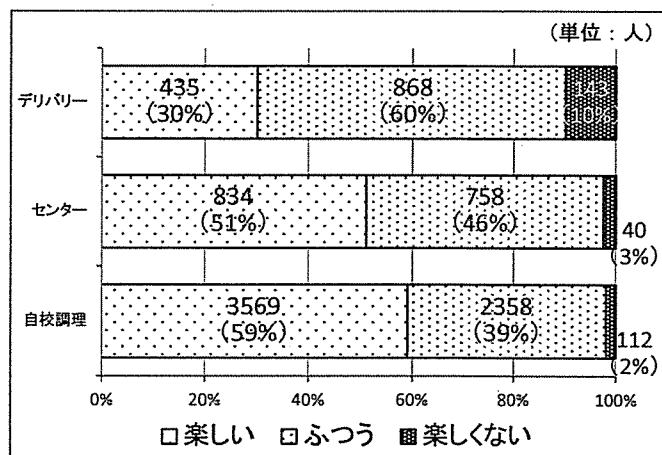


② 給食の時間の楽しさ

給食の時間について、「楽しくない」と答えた児童生徒の割合は、デリバリー給食受配校では10%であり、給食センター受配校・自校調理校の2%~3%に比べ高かった。（図4）

また、デリバリー給食受配校で「楽しくない」とした理由で最も多かったのが「おいしくないから」だった。

図4 給食の時間の楽しさ（児童生徒）

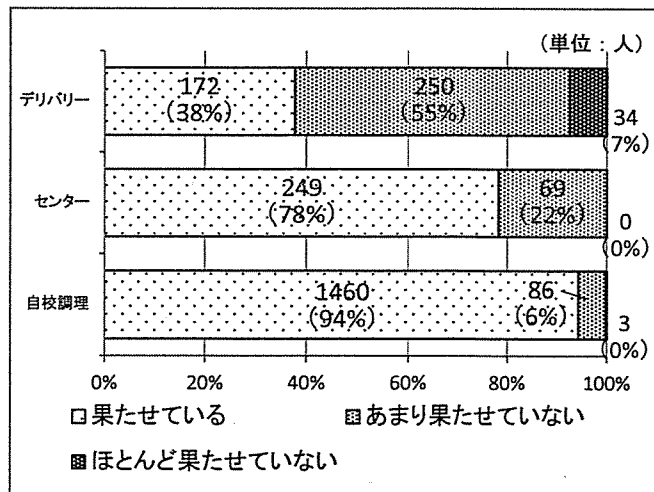


③ 食育における役割

現在の給食が学校給食の食育における役割を「果たせている」と答えた教員は、デリバリー給食受配校では38%にとどまっているのに対し、給食センター受配校では78%、自校調理校では94%と大きな差が見られた。（図5）

なお、給食センター受配校と自校調理校との間で一定の差があることから、給食センター方式において、給食が食育により資するような一層の工夫を検討する必要がある。

図5 食育における役割（教員）



(2) 希望する給食の提供方式等

食缶方式…給食センターや学校の調理場で調理した給食を食缶から各自の皿に配食する方式  
 デリバリー方式…デリバリー給食か持参弁当を選択できる方式

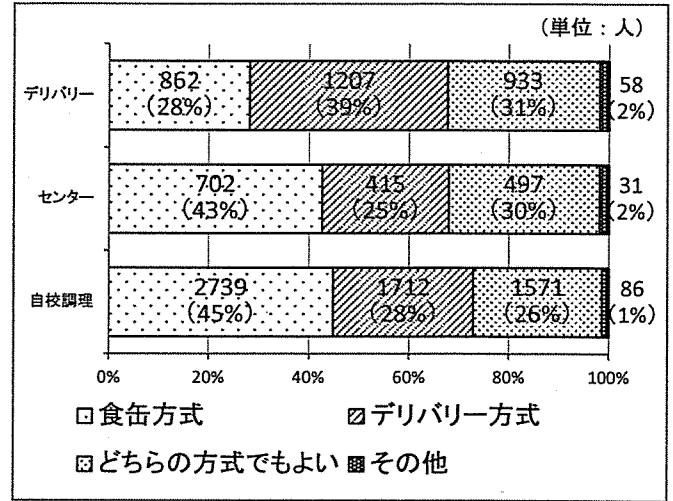
① 児童生徒の希望

児童生徒は、デリバリー給食受配校では「食缶方式」が28%、「デリバリー方式」が39%と、「デリバリー方式」の希望が多かったが、給食センター受配校・自校調理校では「食缶方式」が43%~45%、「デリバリー方式」が25%~28%と、「食缶方式」の希望が多かった。(図6)

なお、現在、デリバリー給食受配校でデリバリー給食を食べている生徒に限って見れば、「食缶方式」が37%、「デリバリー方式」が26%と、「食缶方式」の希望が多かった。

「デリバリー方式」を選んだ理由としては、「自分に合った味つけや量の弁当が持参できるから」と「選べる自由があった方がいいと思うから」が合わせて90%以上で、「今のデリバリー給食が好きだから」という理由は2%程度であった。

図6 提供方式(児童生徒)

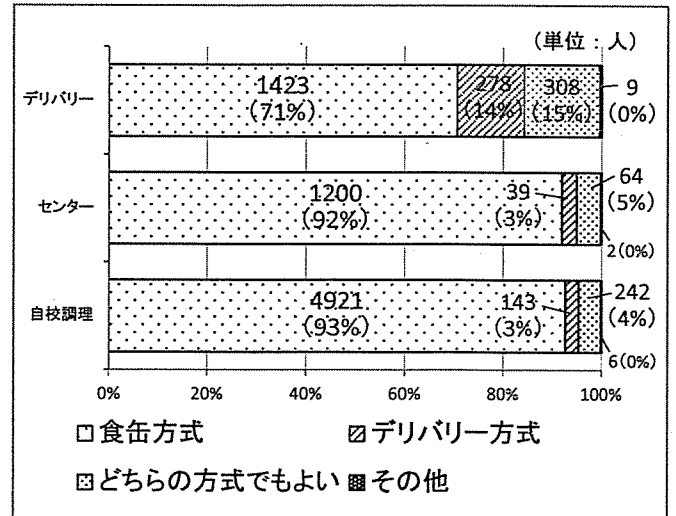


② 保護者の希望

保護者は、デリバリー給食受配校では「食缶方式」が71%、給食センター受配校・自校調理校では「食缶方式」が90%以上で、いずれも「食缶方式」の希望が多かった。(図7)

「食缶方式」を選んだ理由としては、「子どもに温かくておいしい給食を食べさせることができるから」が44%、「多彩な献立が提供され、適切な栄養摂取ができるから」が41%と、この2つの理由が大半を占めた。

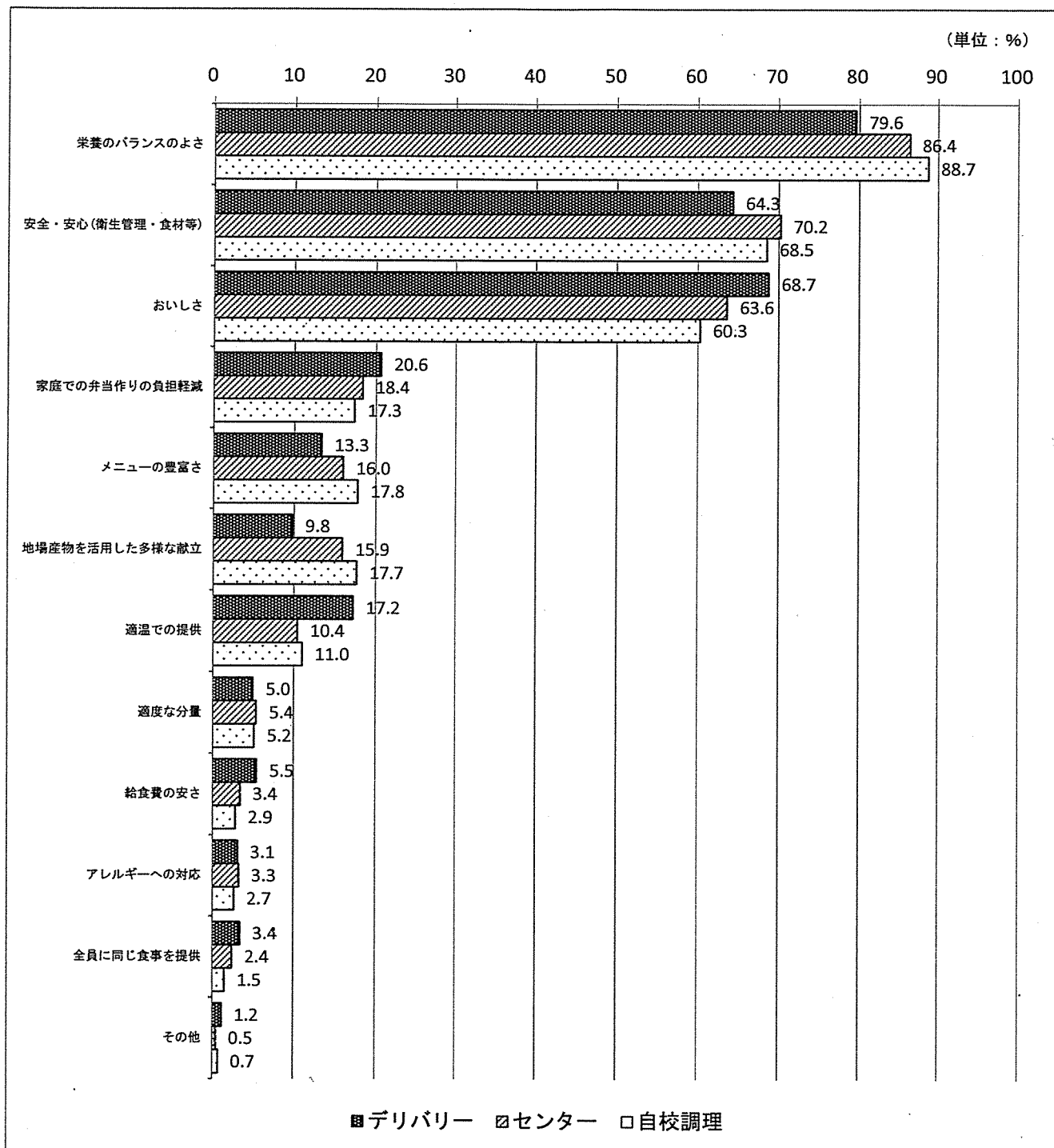
図7 提供方式(保護者)



保護者が、学校給食で重視又は期待する点の上位3位は、「栄養のバランスのよさ」「安全・安心（衛生管理・食材等）」「おいしさ」であった。（図8）

図8 学校給食で重視又は期待する点（保護者）

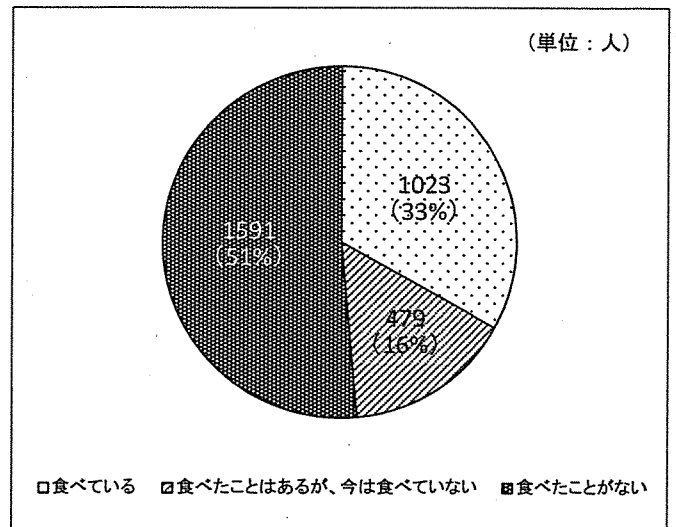
※複数回答（あてはまるもの3つまで）



### (3) デリバリー給食について

デリバリー給食受配校でデリバリー給食を「食べている」生徒は33%で、それ以外は「食べたことはあるが今は食べていない」又は「食べたことがない」生徒であり、過半数（51%）の生徒がこれまでデリバリー給食を「食べたことがない」という結果であった。（図9）

図9 デリバリー給食の喫食状況（児童生徒）



利用しない理由は、生徒では「家で弁当を作ってもらうから」が最も多く、続いて「おいしくない又はおいしそうでないから」「おかずが冷たいから」という結果であった。また保護者では「子どもが食べたがらないから」「弁当を作っているから」が同程度で最も多く、続いて「おいしくない又はおいしそうでないから」「おかずが冷たいから」という結果であった。（図10、11）

図10 デリバリー給食を利用しない理由（児童生徒）

※複数回答（あてはまるものすべて）

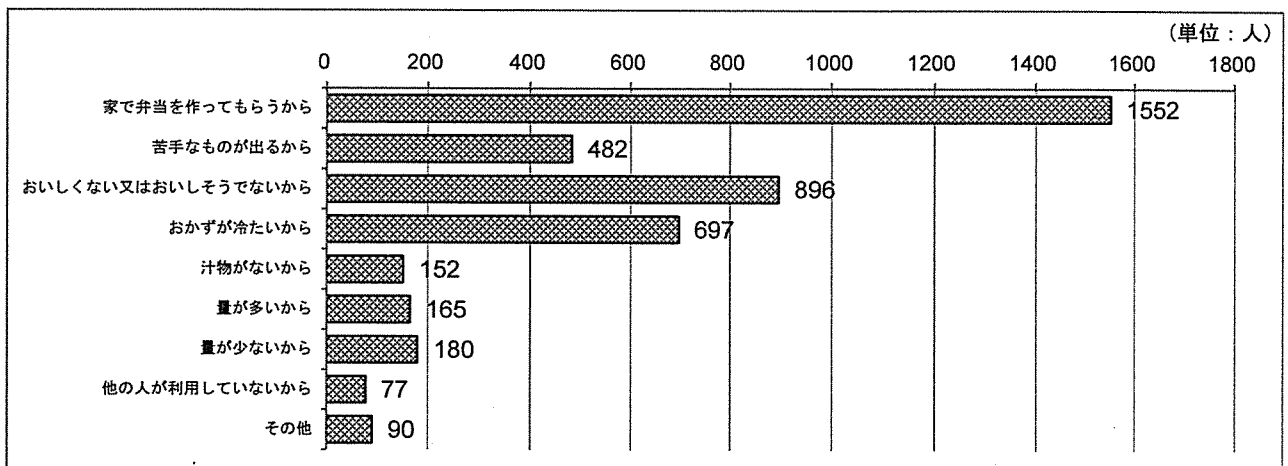


図11 デリバリー給食を利用しない理由（保護者）

※複数回答（あてはまるものすべて）

